

# 【犬夜叉】 神が愛した妖

夜空 星月

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ぎやあああああああああああ  
!!!!!! 死ぬううううう!!!  
.....死にました

と思ったら神の子に転生してた!?  
なんだこれ！

殺生丸様オチの話です！

# 目次

【第一話】死にました

1



# 【第一話】死にました

突然ですが、死にました。

実は私いじめを受けていたんです。

でも物語のヒロインみたいに

「皆に迷惑をかけられない！」

とか、全く思わず先生に即効チクったんですけどね

迷惑掛けたな、とは思いましたよ？さすがに

でも、いじめをされたのは私、悪くないと思うんです。

第一、彼女たちと話したことありませんでしたし。

呼び出されたときなんか吃驚しました。

「ねえ、二階堂さん。ちよつと着いてきてくれる？」

『は？誰』

しよっぱなから殴られました。

酷いと思いませんか？初対面の人に頭をバシンツですよ。

私、マジ殺そうかと思いました。

私、何故か頭だけは良いので、頭だけは絶対生涯守り抜くって決めてるんです。

ですから、高校生活で頭を叩かれちゃあ……  
こりやあもう、ボケちやうのかもしれないねえ……

まあ、そこらへんはどうでもよくて……  
呼び出された後めっちゃ、悪口を言われました。

しかも、定番の裏庭ではなく屋上。

鍵かかっているはずなのに、どうやって手に入れたんだろ。

誰も入らないからか、フェンスがない。

あつぶな、落ちたら死ぬって。

「ウザいんだよ、お前！」

『(いや、こういうことしてるお前がな。)(』

「マジその顔面どうにかしてくんねえ？」

『いや、パンダさんに言われるとか、悲しすぎて泣けてくるし』

「お前男に媚び売りすぎ、ビッチが。」

『（私、委員の男子の中田くんとか喋ったことないんだけど）』

「デブ、お前といると不快なんだけど」

『（呼び出したのそっちだよね？）』

「…はあ？ダンマリ？マジうざい」

『（喋れって言われてないし。というか心の中ではお喋り放題だったよ）』

でも、これだけは言われなくなかったな

「気持ち悪いんだよ、そのアザ」

『つつ!!』

生まれつきある、アザは  
まるで刻印のように、黒く星に見えなくもない形をしている。

最初、色があまりに黒いからか、友達は皆

「それって刺青？なんかカッコイイね」

と、いうけれど、最終的には気味悪がつて離れていくのが落ちだ。

別にコンプレックスというわけではないが、

このアザがなければ出来たことがいくつかあったのでは  
そう思うことも沢山ある

「あつれれ〜？もしかして、泣いちゃった？」

「あははっウケるんだけど！」

「ブスの泣き顔とか見たくねー！キモ！」

泣いてねえよ、勝手に決め付けんな。馬鹿。

「あ、でもさ、コイツの泣き顔撮って、学校中に拡散させようよ」  
「おお！いいね、それ！」

「…でことで、きいてたっしょ？ ほら、こっち向いてよ」

伸びてきた手を勢いよく振り払った

——瞬間、

グラツと体が傾いた。

見えたのは、彼女たちの青ざめた顔。

おお、顔面蒼白つてのはこれを指すのか。

水色を映していた私の目は

緑になり、茶色になり…ああこれ、木か。

ドンつと、頭から落ちた。

なんだろ、痛くない。生温かい。

てか、鉄臭くない？私この匂いきらいなんだよね。

私は意識はブツリと途切れた。

これが、私の死んだ日のことです。